



経管栄養について

経管栄養とはチューブを鼻(口)から胃に入れ、チューブを通し栄養を注入する方法です。

お子様にとってミルクを飲むことはとても大きな仕事ですから体力もたくさん使います。ミルクを飲むのに時間がかかると、お子様の負担が大きくなり疲れてしまいます。

また、ミルクが飲めずにいると、必要な栄養が摂れず、体重が増えません。そこで、お子様の負担を軽くし、ミルクが確実にお腹に入り、吸収され、体重が増えるようにするために『注入』をします。

栄養チューブ挿入方法



1 必要物品を用意しましょう

- 栄養チューブ フレンチ Fr
- 注射器
- 固定用のテープ
- 潤滑剤 (食用油または水で湿らせる)



- ① お子様を仰向けに寝かせてください。
- ② 頭を固定し、テープをはがしましょう。
- ③ 上体を少し持ち上げ、チューブのふたを閉じたまま静かにゆっくり抜きましょう。



テープをはがして…



チューブをゆっくりひっぱり抜きましょう

2 前の栄養チューブを抜きましょう

チューブの抜去は、刺激となり、吐いてしまうことがあります。できるだけ空腹時に行いましょう。

3 栄養チューブを挿入します

チューブの挿入は、必ず空腹時に行いましょう。胃の中にミルクが残っていると、吐いてしまうことがありますので、次の注入時間の前に行うのが良いでしょう。

- ①手を洗いましょう。
- ②チューブを挿入する長さを決めます。



お子様の「耳～鼻～みぞおち」の距離を測定して、チューブに油性マジックで全周に印をつけておきましょう。

前回挿入していた長さで印を付けてもかまいませんが、お子様の成長に合わせるためにも、できるだけ実測をして挿入しましょう。

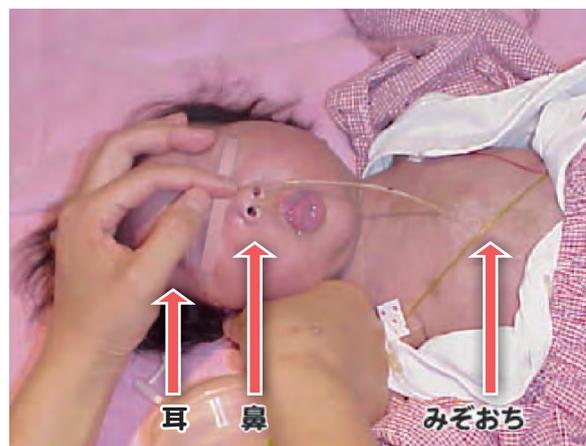
- ③お子様を仰向けにし、頭を軽く前屈させるようにおさえます。体がバタバタしてしまわぬようにあらかじめバスタオルなどくるむとよいでしょう。

- ④チューブの先に潤滑剤を付け、前回とは反対の鼻腔（鼻の穴）から、印を付けたところまで、ゆっくり挿入しましょう。角度はやや真下の方向に、飲み込むタイミングをみてチューブをすすめましょう。

※チューブが誤って気管に入ってしまうことがあります。そのような時には、咳き込んだり、呼吸が苦しそうになります。チューブをぬいて、お子様の呼吸が落ち着いてからもう1度やりなおしましょう。

ポイント

- バスタオルでくるみましょう。
- チューブ先に潤滑剤をつける、または水で湿らしましょう。
- 挿入の角度は真下に入れるような方向で…飲み込むタイミングでチューブをすすめましょう。



位置を確認する



挿入する長さに油性マジックで印をつける



鼻腔（鼻の穴）からゆっくり挿入

4 チューブが胃内に入っているか確認します

- ①まず鼻にテープで固定しましょう。
- ②チューブが胃内に入ったか確認しましょう。
※うまく入らずに口の中でとぐろを巻いてしまっていることもありますので、必ず、次の方法で胃の中に入ったことを確認しましょう。

チェック!

① 注射器で空気をいれる ⇒

みぞおちのすぐ下（胃のあたり）に耳を当て、注射器で3～5cc空気を入れて気泡音を聞く。「ゴボツ」と聞こえれば ○!

② 注射器で吸引する ⇒

胃の内容物が引けてくれば ○!
空気が引け続ける時や、むせ込んでいる時、顔色が青白い時は気管側に入ったことが考えられるので抜きましょう。

- ③胃内には入っていることがきちんと確認できたら頬にもテープ固定しましょう。
その際、鼻の穴がふさがらないよう、また、チューブが抜けてこないようテープしっかり固定しましょう。

ポイント

- テープは、はがれたり、汚れたら適宜交換してください。
- チューブがあたって鼻や皮膚が赤くなったりしていないか注意しましょう。
- 1日1回はチューブの挿入長さを確認しましょう。印が消えかけていたら再度印をつけましょう。



鼻の固定テープを先にとめる



胃内に入っているか確認する



確認できたらテープでしっかり固定する